

## 武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第7回）

日 時：平成31年1月15日（火） 午後7時～午後8時44分

場 所：市役所811会議室

出席委員：大上委員、久留委員、栗原委員、小林委員長、中村委員、松田委員、保井委員、渡邊副委員長、恩田委員、笹井委員

欠席委員：岡部委員

### 1. 開 会

委員長挨拶の後、企画調整課長が配布資料の確認を行い、続いて、議事の趣旨について説明した。

### 2. 議 事

#### (1) 討議要綱(案)について

企画調整課長が、以下の資料に基づいて説明した。

- ・資料1-1「第六期長期計画 討議要綱(素案ver.4)」【修正履歴あり】、【修正履歴なし／溶け込み版】参考資料・用語説明付き
- ・資料1-2「第六期長期計画 討議要綱 別冊(実績と評価)」

【委員長】 第6回策定委員会以降、討議要綱の素案検討のために作業部会を3回開き、議論した。この討議要綱をもとに、市民及び議員の方々と意見交換することになる。本日は、討議要綱の最終的な確認をする。各委員から意見をお願いしたい。

【A委員】 「用語説明」に記載されている用語は「あいうえお順」に並んでいるので、「あ行」、「か行」というように索引を入れると、見やすくなる。

【委員長】 この意見は取り入れたほうがいい。

【B委員】 第6章「分野別の課題」の(3)文化・市民生活の5)農業の振興と農地の保全は、作業部会で議論したことがほぼ漏れなく反映された。しかし、新しい農業をどう考えるかについての部分が入っていない。ここで、農地の保全に新たに賃貸借が可能になったことが記述されるのであれば、これは今後、違う形の農業が生まれる1つのきっかけになるので、「農地の保全を図る」ではなく、「農地の保全と新たな農業の検討」あるいは「農地の保全と新たな農業の創造を検討する」とするなど、もう一段前向きな言葉を入れると、これまでの議論に沿うことになる。

用語説明の「補助幹線道路」は、「三鷹通り」という固有名詞を入れて書かれて

いるが、補助幹線道路の一般的な定義は「幹線道路を補完する道路」であるので、先にそう書いた上で「本市においては三鷹通りと中町新道間をつなぐ道路を指す」とするほうがいい。

【企画調整課長】 農業を新たな形でという部分は、庁内の議論が進展しておらず、現実的な具体策が見通せていない。計画案に向けての検討課題とさせていただきたい。

【委員長】 補助幹線道路は、一般的な説明があったほうがいい。私も、「三鷹通りと中町新道間をつなぐ道路」の部分だけが該当するように読んでしまった。

【企画調整課長】 「補助幹線道路」については、「三鷹北口地区補助幹線道路」という正式名称を入れ、一般的な説明を追加する。

【C委員】 第6章(4)緑・環境の6)緑の保全・創出・活用についてのコメントの多くは私の意見である。私が「拠点となる緑」について意見を出したところ、「拠点となる緑」は削除され、公園緑地の記述に包含されてしまったが、これは私の意見と違う。「拠点となる緑」がなぜ公園緑地に含まれてしまうのかも納得できずにいる。そもそも6)緑の保全・創出・活用が、なぜ公園緑地と私有地の緑と農地だけなのか。武蔵野市は、緑を重視し、緑あふれるいいまちだが、緑に対する哲学がない。

生物多様性については(4)緑・環境の1)総合的な環境啓発の推進と、用語説明で触れているが、幾らエコプラザで啓発しても、緑の質及び量の確保・拡充がなければ、環境に配慮した行動とは映らない。

【委員長】 どのように考えて「拠点となる緑」を削除したのかを再度確認したい。公園緑地を「拠点となる緑」と考えているということか。

【企画調整課長】 「拠点となる緑」は、まとまりのある緑として記載した。公園緑地等の緑に包含されるため、ご指摘を踏まえ、本文を修正した。

【委員長】 C委員の「哲学がない」というのは重要な指摘だ。

【C委員】 何の専門性もない一般市民として読むと、公園緑地について熱く語られても、言いたいことが伝わってこない。緑については、武蔵野市らしいことを書きこむべきではないか。

生物多様性について触れるのであれば、緑の質及び量の確保・拡充について書くべきだろう。

【企画調整課長】 今の記載で市民の皆様のご意見をお聞きし、計画案で整理する。書き方は大きく変わる可能性があり、ご意見を踏まえて、所管にもフィードバックしながら、引き続き検討する。

【委員長】 市民との意見交換において、C委員が答えなければならない場面も出てくる。そのときは、C委員の意見も披瀝して、市民とディスカッションしていた

だきたい。

【D委員】 第6章「分野別の課題」の(3)文化・市民生活の2)多様性理解及び男女平等施策の推進で、LGBTやSOGIの理解について触れられ、用語説明もされている。私は、SOGIはLGBTを含んだ幅広い概念だと理解している。LGBTとSOGIの違いについても用語説明にないと、わかりにくい。

【企画調整課長】 SOGIの用語説明にLGBTとの関係について追記する。

【D委員】 第2章「基本的な考え方」の(4)協働の原則について、行政と市民の協働の原則を踏まえてコミュニティの問題等を考えれば、書き方は違ってくるのではないか。討議要綱を踏まえて市民の皆さんの意見をいただいてから、協働をベースにした議論を丁寧に行い、計画案に書き込めるようにしてほしい。

第6章「分野別の課題」の(3)子ども・教育の10)の冒頭には「小中一貫教育実施の是非についての議論を踏まえ」とだけ書かれている。これは何年にもわたり積み重ねられた議論である。しかし、議論の内容は市民の方にはほとんど知られていない。多くの市民に、この間、何を議論したのかを知っていただく上でも、議論項目の例示は入れておいたほうがいい。

【委員長】 確かに、「議論を踏まえ」と書かれていると、どんな議論があったのかと思う。一方で、懇談会でどんな議論が積み重ねられてこのようになったかという細かいことを書くのも難しい。

【企画調整課長】 ここは文章全体のバランスを考えての記載だが、「実績と評価」の14ページ、子ども・教育の最後の段落に「あり方懇談会の答申を受けて」としながら、項目の例示はないので、ここに補足する方法がある。また、「実績と評価」まで読む方は、用語説明も見るので、「小中一貫教育の検討」という項目を用語説明の中に起こす方法もある。

【E委員】 施設一体型の小中一貫のあり方懇談会は、第六期長期計画におけるこの議論の課題整理と方向性を示すことが設置目的だった。あり方懇談会の委員の方々が課題出しをした部分、即ち中学校に相当する小中一貫後期課程の問題、子どもの学校生活の問題、地域コミュニティの議題に上がっていること、防災上の問題、ハード面での問題などの課題は消さずに、討議要綱に掲載して、全市的議論に付するのが、あり方懇談会以降の位置づけと議論の整理としては正しいと思う。

【副委員長】 書くのであれば、2通りの方法がある。あり方懇談会の報告書と小中一貫教育の検討委員会の答申を踏まえる方法と、詳しくはその2つを参照してほしいと書く方法である。すぐに参照できる書き方にしてはどうか。文章の量を見ながら、どこまで細かく書くかの最終調整をして、市民の皆さんに考える材料を提

供する形がいい。

【企画調整課長】事務局としては、どちらも対応可能である。直接書いたほうが誤解はないので、趣旨を踏まえて最終版で記載する。

【委員長】あり方懇談会に下線を引いて、用語説明で説明する方法もある。

委員が言う、協働の原則を全体に通底させて考えるのは大事で、その問題意識は私自身にもある。協働について上手に議論できる場があるといいが、討議要綱の中に盛り込むのは難しい。

【F委員】用語説明は、この計画だけの説明にするのか、一般論的な説明を入れるのか、最終的によくチェックしたほうがいい。

【副委員長】第6章「分野別の課題」の(3)文化・市民生活の1)と2)について。

1)時代に合ったコミュニティのあり方検討と市民活動の連携の最後の段落「これからのコミュニティを踏まえ」以下は、これからのコミュニティ検討委員会における今後のコミュニティのあり方であり、コンセプトなので、「『これからのコミュニティ』の議論を踏まえ」とするか、「これからのコミュニティのあり方の議論を踏まえ、市民同士が語り」としてはどうか。検討委員会で議論した内容や提案に対し、市民の皆さんが地域での実践で感じる困難を踏まえて今後のことを考えていただける形にしてほしい。

2)多様性理解及び男女平等施策の推進のLGBTとSOGIについて。LGBTは、主に性的マイノリティの主体であり、SOGIは、個人が持つ特性や特質、傾向性をいうので、包含しないで、違う概念として扱ったほうがいい。LGBTも、LGBTQ、LGBTXのように多様化している。「LGBTやSOGIなどの理解に向けて」として、多様なマイノリティあるいは特性のあり方を理解してほしいという記述にしてはどうか。「など」とすることに個人的には思うところがあるが、性的な話に限らず、国籍や文化、障害についても多様な形で理解していただきたいという趣旨で、「など」を入れたほうがいい。

【企画調整課長】副委員長の意見のとおり、修正を検討する。

【G委員】私の担当部分は事務局にコメントバックし、反映済みである。特に意見はない。

【委員長】討議要綱の最終的な修正点については正副委員長の預かりとすることをご了承いただきたい。

(2) 無作為抽出市民ワークショップについて

企画調整課長が、資料2「無作為抽出市民ワークショップ(第2回)について」に基づいて、参加者の募集方法等、実施内容、日程等を説明した。

【委員長】 ファシリテーターの方は全部で何人か。

【企画調整課長】 全体をファシリテートする1名のほかに、12テーブルに各1名のファシリテーターが入る。計13名にお願いします。

【委員長】 ファシリテーターの年齢層はどのようになっているか。

【事務局】 30代から60代まで様々である。

【D委員】 「募集人数 60名程度」と書かれているが、意欲を持って応募する方が例えば100人いたら100人参加できる仕組みにしてはどうか。

【企画調整課長】 100人規模のワークショップを開催したことがあるが、全体の統制が難しかった。今回は5人で1テーブルという設定で、ファシリテーターが1人入る。60人に限定せず、運営しやすい形で柔軟に対応する。

【委員長】 このワークショップは、無作為抽出というところに意味がある。100人來ればうれしいが、人数が多過ぎると、逆に意見を出しにくくなる。運営の許容範囲内で適宜対応していただきたい。

【企画調整課長】 経験的に、1,500名に発送して、約60名の応募がある。60名を超えてもなるべくご参加いただける形を考慮する。

【副委員長】 無作為抽出で、かつ報酬も出るワークショップは、普段は参加に余り興味を抱かない人からの意見が出る。参加者も、話すことで一層興味を持つようになる。ワークショップの終了後は、すぐ解散するのではなく、お茶菓子などを食べつつ30分ほど自由に話せる時間を設けておくといい。

スローガン考案はぜひいろいろ出していただいて、我々も参考にしたい。無理にまとめ切る必要はない。いろいろな案を記録に残しておいてほしい。

【企画調整課長】 会場ではお茶菓子を出す。ワークショップ終了後も自由な議論のできる場について配慮する。また、ワークショップで関心を持った方には、メールアドレスを登録していただき、第六期長期計画策定の節目ごとに情報提供している。

スローガンは、各テーブルで1つ出していただくが、各テーブルの議論の中で出された複数の意見も記録する。

【委員長】 ワークショップは、参加者の関心領域や年代の話に流れやすいところがあるが、ファシリテーターによる進行で、様々な意見を上手に引き出していた

きたい。特に、これからは人生100年時代であるので、自分がここで100年生きるとしたらどうあってほしいかという視点を議論に盛り込むようお願いしたい。

【企画調整課長】 「100年時代を生きる」という視点をファシリテーターに伝える。

【H委員】 報酬もあるというので応募したものの、事前資料として送られた討議要綱を見て、「これを読まなければいけない」というプレッシャーから、参加をためらう参加者もいると思う。無作為抽出された1,500人に案内を送る際には、資料を読み込むことよりも、議論に重点を置いていることを強くアピールしたほうがいい。

【企画調整課長】 案内にそのような形を加える。

(3) 今後の予定について

(4) その他

企画調整課長が、参考資料「市民及び市議会各会派等との意見交換について」に基づき、日程、概要、進行方法等を説明した。

【G委員】 市議会各会派との意見交換について、意見を出し合ったその結論及び最終的な判断は、議会と委員会のどちら側、あるいは誰にあるのか。また、意見交換の際のファシリテーターは誰がするのか。

【企画調整課長】 最終的には策定委員会で意見をどう反映するかを決める。意見交換の場で白黒をつけるということではない。ご意見は事務局で集約し、次の計画案にどう生かしていくのか策定委員会で検討していただく。意見交換会のファシリテーターは、委員長にお願いすることを想定している。

【副委員長】 委員長がファシリテーションする場合、議会の正副議長は発言権を持つ一議員として参加するのか。

【企画調整課長】 別途進めている自治基本条例の検討の中での市議会議員との意見交換は、今回の形式で行い、議長も一議員として意見を述べた。今回も同様の形になると思われる。

【A委員】 市議会各会派との意見交換は、各会派が意見について事前に提出する文書に基づいての意見交換か。それとも、文書にある事項は除いて意見交換をするのか。

【企画調整課長】 議員は、基本的にはあらかじめ提出した文書に基づいて意見を言うと思われる。事前の文書は、制限時間の関係で言い切れない部分があっても、残すことができるという意味もあると思っている。

【A委員】 各会派から届いた文書はできる限り目を通しておきたい。文書は事前

のどのタイミングで見ることができるのか。

【企画調整課長】 文書が提出され次第、委員にメールで共有させていただき、内容についての補足説明等は事務局が対応する。

【D委員】 市民会議委員との意見交換及び教育委員との意見交換は、非公開の作業部会として開催と書かれている。市民会議は公開で行われたし、教育委員会も基本的には公開で開催されている。非公開でなくてもいいのではないか。

【企画調整課長】 より深い議論をする上で、政策形成過程の情報で公表できないものが出てくる可能性もあり、作業部会とした。策定委員会で公開のほうが良いということであれば、検討する。

【副委員長】 教育委員は公職であり、定例の教育委員会も公開のため、教育委員との意見交換については公開でも問題はないのではないか。ただ、市民会議委員との意見交換は、公開と非公開、どちらが良いか、市民会議での経験を踏まえた意見を伺いたい。

【C委員】 私は公開にさせていただきたい。もし自分が市民会議に参加したくてもできなかったとしたら、どういう話が出るのかを見たいし、教育委員との意見交換も公開で聞きたい。

【企画調整課長】 会場の412会議室は、公開で傍聴席を設けることができる広さがあるので、検討する。

【G委員】 市議会各会派の方々から文書が提出されたら、事務局はそのままメールで送付してほしい。事務局による事前の論点整理は不要である。

集中的に意見交換会した後の委員会開催は4月だ。意見の整理から計画案作成に展開していくには間が空き過ぎる。さらに、年度末でもあり、スケジュールがとりにくい。このことについてはどう考えたらいいか。

【委員長】 第五期長期計画・調整計画のときは、質問の書面が事務局から何の手も加えない状態で送付された記憶がある。

【企画調整課長】 議会が主催の全員協議会では、事前文書の提出というフローはなかったが、今回は期日までにご提出いただき、提出を受けたものは直ちに策定委員と共有する。

意見交換会を2月に集中的に実施し、パブリックコメントは3月まで募集する。ワークショップは3月に開催される。また、3月は予算委員会と本会議も開会されている関係で、策定委員会での議論は4月になる。委員長、副委員長とも相談しながら、なるべく早い段階で意見を取りまとめ、共有できるようにする。

【委員長】 策定委員会では、各委員が市民的な意識を持って議論を重ねてきた。

意見交換会は、考えもしなかったような、突飛で新しい意見が出てくるわけではない。今まで私たちが議論したことの繰り返しのような質問や確認がなされ、そこから、どうしても計画案から外せないという感覚がわかってくる。それを改めて私たちが調整する。

【副委員長】 以前の全員協議会形式での意見交換では、議会の方からご質問をいただき、策定委員が答える形だった。しかし、委員長や私が委員を務めた第五期長期計画・調整計画策定委員会の際は、委員会からも質問や逆質問をした。そのほうが意見交換になるし、事実関係の確認もできる。意見をいただきつつ、我々の意見も交換できるような雰囲気づくりが大事だ。進行役の委員長には、ぜひともよろしくお願ひしたい。

【E委員】 市議会各会派等との意見交換について、平成30年11～12月に議会と調整を重ねた。議会には、全員協議会方式のほうがいいという意見もあったが、討議要綱は今後も様々な変更が入ること、お互いに議論を交わすことを主眼に置いていることを説明し、ご理解いただいた。4月には市議会議員選挙があるため、計画案の意見交換の方法については再度協議することになる。

【D委員】 策定委員会内でも必ずしも意見が一致していない件についてはどう考えればいいのか。「策定委員会の中には様々な意見がある」と伝えればいいのか。もっと違うやり方をしたほうがいいのか。

【委員長】 様々な意見を調整するのが策定委員会であるので、委員会内にも様々な意見があると行って構わない。

委員長の閉会宣言により、武蔵野市第六期長期計画策定委員会(第7回)を閉じた。

以 上